

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

| | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|--|--------|--------------------|---|--|--|--|
| 事業番号 | | 07 01 03 | 中期総合計画主要施策番号 | | 2-06 | 担当課 | 部・課 | 商工労働部産業政策課 | |
| 事業名 | | 商店街共同活動支援事業 | | | | | 内線 | 2914 | |
| | | | | | | | E-mail | sansei@pref.nagano.jp | |
| 事業の概要等 | 事業の目的 | ・自立的に活動している商店街団体が企画・実施する事業に対し支援することにより、商店・商店街が直面する諸問題を解決するための糸口を探るとともに、地域あるいは広域の住民にとって魅力あるまちづくり・商店街を具現化する。 | | | | | | | |
| | 事業の必要性 | [現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] | | | | | | | |
| | | ・空き店舗やいわゆるシャッター通りといわれる商店街の増加により、小規模商店や商店街の衰退が進んでいる。 | | | | | | | |
| | | [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] | | | | | | | |
| | 事業内容 | ・中心市街地の空洞化、地域コミュニティへの帰属意識の希薄化、大規模小売店舗の郊外への出店、車社会の進展と道路交通網の整備による消費行動の広域化、個店の後継者不足、商店主の経営意欲の低下等 | | | | | | | |
| [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] | | | | | | | | | |
| 実施期間 | ・商店や商店街の持つ魅力を再認識し、商店主や商店街の経営意欲の向上を図るとともに、賑わいのあるまちづくりのための共同活動の方向性について、地域における合意形成を図る必要がある。 | | | | | | | | |
| | 1 補助内容 商店街の振興、個店の活性化に資すると認められる事業に要する経費(謝金・旅費等)に対し助成 2 補助率 長野県商店街振興組合連合会 : 補助対象経費の10/10以内 長野県商店会連合会 : 補助対象経費の1/2以内 | | | | | | | | |
| 事業の概要等 | 事業の目的 | S58 ~ | | 根拠法令等 | 商店街共同活動支援事業補助金交付要綱 | | | | |
| 成果と達成状況 | 事業の目指す成果 | | 達成度(期待どおり)の判定基準(H20) | | | 達成状況 | | 評価 | |
| | 商店街及び商店会団体が行う賑わいのあるまちづくりのための研修、講習会、調査研究及び情報提供等の事業を支援し、魅力的な店舗づくりや持続的に繁栄する商店街づくりを促進する。 | | 各種研修・講習会等を開催し、前年度並みの500名程度の参加者を得るとともに、当該研修会等を契機に、問題点の把握、まちづくりに対する共通認識や情報の共有化を図り、具体的な活動の展開に結び付ける。 | | | 各種研修会等への参加者総数は前年度に比べ減少(実績:参加人数448人)したが、参加者に対するアンケート結果では、回答者全体の約92%が「参考になった(又は内容が良かった)」との回答があった。 | | a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下 | |
| 事業コスト | 区 分 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(当初) | 20年度の概要 | | |
| | 最終予算額 (A) | | 千円 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 国庫・県単 | 県単 | |
| | 決 算 額 (B) | | 千円 | 1,800 | 1,800 | | 実施方法 | 補助 | |
| | B(H21はA)のうち一般財源 | | 千円 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 歳出節別 | 内訳等 | |
| | 概 算 人件費 | 従事する職員数 | 人 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | (単位: 千円) | ・補助金:1,800 | |
| | 概算事業費 (B(H21はA)+C) | 概算人件費 (C) | 千円 | 714 | 715 | 715 | | | |
| 事業実績 | 内 容 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(予定) | 左記以外の20年度の実績 | | |
| | 研修会等への参加人数 | | 人 | 527 | 448 | 500 | ・各商店会連合会のイベント、催事、活動報告等を掲載した情報誌を作成し、会員に配布した。 | | |
| | (長野県商店街振興組合連合会) | | 人 | 349 | 259 | 300 | ・研修内容が実際の商店街活動等に反映された。事例として、岩村田商店街の寺子屋や大町駅前通り商店街の地域通貨など13団体、16事業の取組に結びついた。 | | |
| | (長野県商店会連合会) | | 人 | 178 | 189 | 200 | | | |
| 事業の課題 | 区 分 | | 判 定 ・ 説 明 | | | | | | |
| | 事業のニーズの変化 | | 増加 | 横ばい | 減少 | 判 定 の 説 明 | ・中心市街地活性化の観点からも、商店街等の振興に資する事業のニーズは引き続き高いものと判断される。 ・研修会等の有効性を高める実施方法並びに内容については検討の余地あり。 | | |
| | 県の関与を見直す余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | |
| | 有効性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | |
| | 効率性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | |
| 課題の総括 | | ・研修会等への参加者が減少傾向にあることから、研修会等を魅力的なものにするため、内容の見直しや講師の選定、開催方法等についてさらに検討する必要がある。 ・今後とも2団体と連携を図りながら、市場の環境変化に対応しうる人・店づくりに資する事業計画となるよう助言をしていく。 | | | | | | | |